



アルファだより (2020年8月)

各地でさまざまな活動を展開している「まちづくりガーデナー」の皆さん (毎年7月の現場見学時の写真から)

「まちづくりガーデナー」の皆さんの活躍

平田 富士男

淡路景観園芸学校の「生涯学習課程」には三つのコースがあることは前号でご紹介しました。そのうちまちづくりガーデナー・本科コースを修了された方は、兵庫県知事から「まちづくりガーデナー」の称号が付与されます。昨年度末までに1,275名のまちづくりガーデナーが認定されました。そして、その皆さんは各地で花と緑のまちづくり活動のリーダーとして、さまざまな活躍をされています。

その活動内容は、まちなかの空き地を花や緑で美化していくだけではなく、地域の公園をみずから管理してコミュニティの拠点としていくもの、自宅の庭を開放してコミュニティづくりに資するオープンガーデン活動を主導するもの、花や緑を活用して子どもなどに環境教育を行うもの、高齢者などの福祉に役立てるもの、まちだけではなく農村や里山の環境保全を進めるもの、そして、そのような花と緑のまちづくり活動を行うグループどうしのネットワークづくりを行うもの

にまで広がっています。

このような活躍は、その地域から評価されているのはもちろんのこと、全国的に見ても高いレベルであり、これまでに各種のコンクールや表彰などにおいて、「大臣賞」を受けたグループでまちづくりガーデナーが参画しているグループは20を超えています。このようなことから、兵庫県は全国的に見ても市民による花と緑のまちづくり活動が最も進んでいる地域の一つとして認識されています。

そして、このような活動に向けてその一歩を踏み出すサポートをしてくれるのが、修了生がそのネットワーク組織として結成しているNPO法人アルファグリーンネット(略称「AGN」)です。AGNでは、本校におけるさまざまなクラブ活動をコーディネートして、グループに属していなくても活動の場を提供したり、会員の活動情報の交換、研修会の開催などを行ったりして修了後の活動へのスタートを支援しています。このように、学校と修了生の会が一体となって花と緑のまちづくりを進めているところは全国を見ても兵庫県だけでしょう。受講生の皆さん、このような学校、修了生一体となったサポートで、まちづくりの第一歩を踏み出していきましょう。

7月に予定していた実習・講義を紹介します

本科コース：花と緑の栽培実習

- 栄養繁殖 挿し木 (芽) -

三木直樹、上村公浩

植物を増やす方法には、種から育てて増やす方法（実生繁殖）と、枝や葉など植物の一部を用いて増やす方法（栄養繁殖）があります。例年、6～7月の2回にわたり栄養繁殖である挿し木の実習を行います。

6月は、ハサミを片手に学内のフィールドに班毎に散らばり、思い思いに木本や草本の穂木を採取します。採取した穂木を約10cm程度に調整し、鹿沼土などの病虫害の心配がなく、保水性、排水性、通気性が良い土を入れた育苗箱に挿していきます。そして、これらを温室内で乾かないように十分に灌水しながら約1カ月管理します。

7月には、発根状況を調査した後、鉢上げを行います。昨年度は、アジサイやレモンマリーゴールド、ネペタなどはよく発根しましたが、ヤマボウシ、リキュウバイ、ブラシノ

キなどは全滅でした。挿し木は、どんなものでも増やせるわけではなく、植物の種類によりしやすいもの、しにくいものがありますし、穂木の調整にもコツが必要です。この実習では、みなさんに鉢上げした苗とこれらの知識を持って帰っていただきます。

これまで見て楽しんでいた身の周りの植物を自分で増やすことができるようになります。みなさんの園芸ライフがより充実したものになりますよ。



挿し木の実習

本科コース：ガーデンアイテムを作ろう！

守 宏美

ガーデンや庭に年月を経た風合いがあるオブジェを置くと素敵な雰囲気を作ることができます。モルタルを使って、ガーデンに飾れるプレートや小さなオブジェづくりを紹介します。（昨年度の本科コース前期の授業で実施しました）

【主な材料】

造形用セメント（商品名：ギルトセメント）

断熱材（商品名：スタイロフォーム）

着色用のアクリル絵の具

【作り方】

作り方はまるでお菓子作りです。

(1)断熱材をカッターなどで削り出し、ベースを作ります。

(2)ケーキの生地を作るように、セメントに規定量の水を入れて混ぜてモルタルを作ります。これをベースに生クリームを塗るように塗り付け乾かします。

(3)アクリル絵の具で着色します。

【仕上げ】

モルタルや色塗りの工夫で、スレート・石・枕木風に見せたり、中世ヨーロッパ風のエイジング効果を出したり、様々な風合いを作ることができます。テーマパークのお城の壁や水族館や動物園の断崖絶壁は、よくこの工法を利用し作られています。

機会があればチャレンジしてみてください。



モルタルを塗り付け、乾かします。多肉植物などをアレンジして完成！

マスターコース： 森林植物園見学

田淵 美也子

神戸市立森林植物園は六甲山系の西端に位置する面積 142.6ha の広大な植物園です。六甲山の森の中に、春のツツジ・シャクナゲ、初夏のアジサイ、秋の紅葉、冬の雪景色など見どころ満載ですが、中でもアジサイは神戸市民の花でもあり、25 種 350 品種、約 5 万株を収集して植栽し、国内有数のアジサイの名所です。アジサイ属は 5 月のコガクウツギに始まり、9 月頃まで、タマアジサイや遅咲きの中国産アジサイなどが咲き変わります。最も多く植えられているのは美しい青いヒメアジサイで、六甲ブルーといわれアジサイの代表品種です。

また、変異の多いヤマアジサイは多品種栽培展示されています。特に、シーボルトの日本植物誌に記載され、長年謎のアジサイとされていた八重咲きのヤマアジサイ「シチダンカ」は 1959 年六甲山中で発見され、大きな話題となりました。

今では、増殖され普通に流通しています。この他、日本や世界のアジサイの原種、品種など貴重なコレクションがあります。アジサイの時期には一部の苗圃を一般公開していますが、公開されない保存園には珍しい種類など多く栽培保存されています。この、森林植物園の見学会では、特別にその保存園に入れていただき、専門の職員からアジサイについて丁寧な説明をしていただける貴重な体験ができます。



上から
・ヒメアジサイ
・タマアジサイ
・シチダンカ
・中国原産
ストリゴサ



マスターコース： 庭園デザイン演習 沈 悦

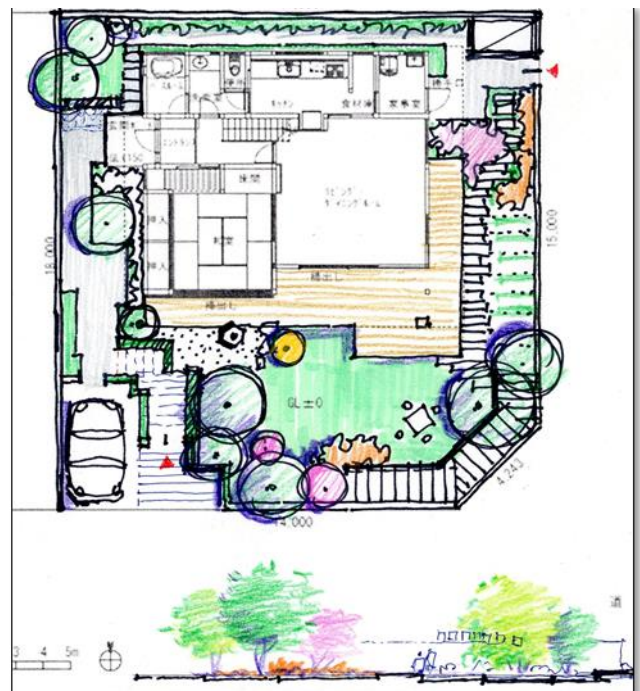
庭園デザイン演習は 90 坪規模の個人住宅の敷地を対象に、庭園づくりの構想から設計図を描くまでの演習です。

構想の段階はまず住宅の持ち主の家族設定から始まります。それは老夫婦の二人家族が住む住宅かそれとも三世代暮らしの家族か、受講者が各自で決めます。次にこの家族の特性に合わせ、どのような庭が必要とされるのか、どのようなイメージがよいのかについて、各自でプランを考え、少しずつ図面化をしていきます。

図面描きは教員の指導下で行いますが、作業をしながら、庭園空間のあり方や導入したい要素について何回も検討し、最終的に最適なプランを確定します。

プランを決めた後に、詳細な設計作業を行います。中には具体的な樹木や草花、芝生、生垣、家庭菜園、野外卓、ベンチ、門扉、縁側デッキ、煉瓦舗装、ペット小屋、散水装置、

照明器具など様々な要素をバランスよく庭の空間に配置します。下図は対象庭園の構想から具体的な形にするプロセスの中で作成した図面です。このような一連の設計体験を通して、庭園設計の基本的な考え方と技を自然に覚えるようになります。



これからのネット環境とその活用

林 まゆみ

昨年には予想もしなかった、コロナ禍のもと、私たちは様々な不自由な生活を強いられています。一方、今まで、殆ど使う機会がなかった、パソコンや iPad、或いはスマホなどを活用した遠隔による学習や交流手段が生活の中に入るようにもなりました。

淡路景観園芸学校では受講生の皆様のオンライン環境に関するアンケート調査を行い、使用状況やこれからの活用について、お尋ねしました。このコラムでは、皆さまの状況やこれからの在り方について、少し考えてみたいと思います。

アンケートは、67 通発送し、32 通の回答を得ました。①オンライン授業を希望されますか？という質問では、歓迎するは 3 割程度でしたが、避けたいが可能であるという方を合わせると 7 割以上でした。②今はできないが、今後に向けて、オンライン受講に取り組みたいか、という質問では、オンライン環境

の有無に関わらず、使えるようになりたいという回答が 6 割近くありました。③普段どのような機器を使用されるかという問いでは（複数回答）6 割の方がパソコン、7 割近くの方が、スマホを活用されています。④オンライン受講では、どの機器を使うかという問いでは、65%の方がパソコン、そのほか、スマホやタブレットの方もいらっしゃいます。⑤受講可能な方で、双方向通信のできる機器としては、WEBカメラやマイク所持が9割近く、スピーカーも 8 割程度おられます。⑥自宅のネットワーク環境は、9 割近くの方が、WIFI または有線で接続と答えられました。

このように、オンライン環境は思いのほか進んでいますが、自由意見としては、植物に実際に触れる体験が大事、事前に研修をしてほしい、色々な方と交流して話しをしたい、既に使っている、不安材料も多い、など色々なご意見を伺いました。私たちは、変化する状況の中でも、連携や連帯を強めながら、生活や学習の環境を高めていきたいものです。

受講生募集のお知らせ

まちづくりガーデナー テーマコース 「里の草原の観察と、 里地草原の保全再生」

このテーマコースは4月にスタートする予定でしたが、コロナ禍の影響で、9月から全2回で開催することになりました。

講座の内容は、淡路島の農村を散歩しながら、里の植物を観察します。淡路島では、これまで里地の半自然草原は比較的よく残されていましたが、ここ10年のうちに急速に衰退しつつあります。そこで、里の半自然草原について、より深く理解するとともに、草原生植物の保全の手法を学び実践します。

9月はフィールドを歩き、夏から初秋の植物観察を行います。

11月は近隣のフィールドで秋に結実する種子を採集し、学内の草原再生区に播種するほか、ポット苗づくりを行います。

皆さま奮ってお申し込みください。

講師：澤田 佳宏 主任景観園芸専門員

田淵 美也子 主任景観園芸専門員

定員：15名

開催日：9/17（木）、11/6（金）全2回

受講料 5,800円 傷害保険料 74円

申込締切：9/4（金）

お申し込み・お問い合わせ先：

〒656-1726 淡路市野島常盤 954-2

兵庫県立淡路景観園芸学校 普及指導課

TEL：0799-82-3455 FAX：0799-82-3124

E-mail：alpha@awaji.ac.jp

